

特集 ドラゴン・幻獣

今回の特集は「ドラゴン・幻獣」です。世界にはさまざまな姿の空想生物が伝えられていますが、なかでも竜とかドラゴンと呼ぶ爬虫類型空想生物の伝承は不思議と世界中で見られますね。何故竜・ドラゴンだけ…不思議に思いませんか？

『ドラゴン』 飼育方育て方

ジョン・トプセル/著 ジョーゼフ・ニグ/編 神戸 万知/訳 原書房

「もしドラゴンが現実居たら」そんな研究者な著者の願望と、ドラゴンに対する溢れんばかりの知識・愛情が一冊の本になりました。世界中に伝わる様々な竜・ドラゴンたちの種類と、伝承や後世の小説・戯曲等の創作をもとに構築されていった彼らの姿かたちやその特徴や性格を、あたかも動物図鑑のように「彼らの特徴」として紹介し、伝承と現実の動物を参考に、成長や飼育方法をまるでペットの飼育指南書のように面白く解説していきます。読み終わった後は、彼らが現実当たり前のように存在すると錯覚すること請け合いです。

『黒き鷲獅子（グリフォン）』 上下巻

ラッキー/著 ディクソン/著 細美 遙子/訳 佐藤 美穂子/訳 東京創元社 創元推理文庫

邪悪で孤高な天才魔法使いマニアルは、天才魔法使いアーソウに戦いを仕掛ける。アーソウは自身の創造物であり、友人でもある勇猛な鷲獅子（グリフォン）・スカンドゥラノンや仲間達と共にこれに挑戦、長い長い戦争が始まった。物語は、スカンドゥラノンがマニアルの新兵器を奪取するところから始まる。鷲獅子親子二世代に渡る圧倒的なスケールと、緻密な心理描写で読者を本の中へ引きずり込む大河ファンタジー「魔法戦争」シリーズ三部作・第一弾。

『ケニー&ドラゴン』 伝説の竜退治

トニー・ディテルリッジ/作・絵 水間 千恵/訳 文芸堂

伝承と自然科学が大好きなウサギのケネス（愛称：ケニー）は、ある日気が動転した父から「見た事も無い動物が現れた」と聞いた。しかもそれはライオンでもワニでも恐竜でもなく、^{おとぎばなし}御伽噺まんまのドラゴンだという。ケニーは好奇心から観察しに行ったのだが、会ってみると伝承の恐ろしいドラゴンと違って、自称教養派の至って大人しい奴。趣味も合ってすっかりそのドラゴン・グレアムと家族ぐるみで仲良くなったケニーだったが、事を察した国の王様から「危険なドラゴンを退治せよ」というお触れが出る。ケニーは友人グレアムを救おうと一計を案ずることにして…。きっと子供心に帰れる愉快的な童話。

『スイの魔法』 全5巻

白神 怜司/著 アルファポリス 星雲社（発売）

ヴェルディア魔法学園。この世界の『東の大国』にある魔法教育機関では、4年生になると魔カランクを測定して使い魔を召喚することになっていた。飛び級で座学を学んだ少年・スイは、実技を学ぶために4年生のクラスへ編入することに。そして迎えた召喚の日、スイの呼びかけに応えたのは赤い眼をもつ巨大な金龍・ファラだった。正反対なようでどこか似ているスイとファラ。二人の出会いによって世界を巻き込んだ大きな物語が始まります。

『コニー・ライオンハートと神秘の生物』 シリーズ全4巻

ジュリア・ゴールドディング/作 松岡 佑子/訳 カースティ・祖父江/訳 静山社

両親の海外赴任を期に叔母・エベリンの住むヘスコムにやってきた小学生のコニー。動物に好かれ過ぎるために今まで色々な目に遭ってきたが、転校初日の出来事がきっかけで、不安な気持ちは和らいでいった。そんな中突然出かけることが多くなったエベリン。協会の集会としか教えられず、更にはクラスメイトのコレも関わっていると知り、コニーは興味を持ち始めたが、これが彼女の運命を大きく変えていく。この世には不思議なことが沢山あります。怖いこともあれども、勇気とともに第一歩を踏み出して、コニーと一緒に冒険してみませんか？

『偉大なワンドゥードル最後の一匹』

ジュリー・アンドリュース/作 青柳 祐美子/訳 小学館

トム・ベン・リンディの兄弟三人はある日動物園で、「連れて帰るならどの動物がいい？」「連れて帰るなら、変わった動物がいい」と言い合いっこをしていた。そこに現れた小柄な男が「ワンドゥードルという動物ならどうだ」という提案をしてきた。思わず会いたいと回答した三人。その男、サバント教授によると、ワンドゥードルはワンドゥードルランドと呼ばれる場所にいるという。催眠術のような訓練を受け、ついに三人はワンドゥードルランドにたどり着くことができた。しかし、同時にブロックと名乗るランドの為政者に発見され、執拗に妨害されると共に、リンディもさらわれてしまう… 想像力が紡ぐ不思議冒険譚。